eco^{±3}κ³ eco^{±3}κ³ do!

2020. 7. 20号

レジ袋 有料義務化について

7月1日からレジ袋の有料販売が義務化されました。

レジ袋有料化の背景には「プラごみ問題」があります。日本人1人当たりの「容器包装プラ」の廃棄量は世界2位であり、国はすべての廃プラを有効利用し、リサイクル材や植物由来素材の利用を拡大すると、1兆4000億円の経済効果と4万人の雇用を創出できると見込んでいます。

ただし、日本で発生する年900万トンの「プラごみ」のうち、「レジ袋」は数%にすぎません。レジ袋の有料化は「地球規模の課題に関心を向けてもらう」という狙いが含まれているのです。

私達の暮らしに溢れる「プラごみ」について、この機会に考えてみたいですね。



「Eco列車でいこう!」~第132回~ 限定クーポンで「妙高旅」!

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです!)



旅行サイトで「新潟県民限定クーポン」を見つけた。県内の10,000円以上の宿に泊まると、5,000円の宿泊助成を受けることができるということで、妙高市の燕温泉にある「燕ハイランドロッジ」に宿をとった。往復の交通機関はクルマだが、登山とサイクリングを組み入れ、エコな旅を楽しみたい。

6月27日(土)。当初は火打山か妙高山に登るつもりだったが、あいにくの天気のため比較的ラクに登れる300名山「斑尾(まだらお)山」へ。リゾートホテル「タングラム斑尾」から、スキー場を直登していくと、「信越トレイル」というトレッキングロードに出て、1時間30分くらいで山頂に到着。帰路は、カモシカと遭遇したり、野尻湖を一望できるデッキで、ノンアルコールビールを楽しんだりして昼前に下山した。

野尻湖畔のイタリアンレストランで、ピザとパスタの昼食。そのあと燕温泉にある、野趣溢れる露天風呂「黄金の湯」に入浴し、15時を待ってロッジにチェックインした。

このロッジ最大のウリは、冷泉露天風呂だ。内湯で十分に温まってから、外の冷泉へ。湯温は20℃台。気合をいれないと入れない。がんばって入っては数分後、内湯に逃げ帰る。それを3~4回繰り返すと、不思議とスッキリした。心のこもった和洋折衷ディナーに舌鼓を打ち、早めに就寝。

翌朝。6時前にまた冷泉へ。シトシトと降る雨の音。小鳥の鳴き声。冷泉が湯舟に注がれる音。ブナ林を見ながらの入浴は「非日常」ですばらしかった。

宿をチェックアウトする際に、妙高市内で使える金券(2,000円分)をもらった。5,000円補助に2,000円の金券。とても得した気分になる。

いもり池の駐車場に車を止め、積んできた自転車を組み立てて、苗名滝まで片道5キロの高原サイクリング。 大瀑布の迫力に圧倒された。帰り道の途中から雨が降りだして、かなり濡れた。山の天気は変わりやすい。

さて、最後のお楽しみ。金券で、高原野菜とお米を購入し、新井で名物の「豚汁定食」を食べた。

天気には恵まれなかったが、山と高原に癒された「妙高旅」となった。



カモシカに遭遇

タングラム斑尾の展望のデッキ

野尻湖畔のピザ